



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

「予防活動こそ医療の原点」

岐阜県中津川市の公立病院の視察から

市議会
文教厚生委
行政視察

前号に引き続き、市議会の文教厚生委員会の行政視察の内容を報告します。

岐阜県中津川市は、8つの市町村が合併して05年に誕生しました。人口約8万5千の市で、旧中津川市の市民病院と旧坂下町の国保病院という二つの公立病院を運営しています。公立病院をとりまくきびしい環境



ホールクroppサイレージ

転作水田フル活用の一環としてWCS（ホールクroppサイレージ）の収穫・調製が市内でも始まりました。WCSとは、稲の実と茎葉を丸ごと発酵させ、牛の飼料として利用する新しい取り組みです。

(写真は10月28日、中郷町足洗地区)

直営病院として出発しました。そうした成り立ちからも、一貫して予防と地域医療に重きをおいて運営されてきています。

01年に新しく建て直された院内は、広々として明るく、動線もわかりやすくなっています。入院病棟ではカーテンの代わりにふすま調のしきりを使うなど、軟らかい雰囲気をつくっています。自然との共生をテーマに、周囲の景色はもちろん、2階屋上に庭園をつくるなど、美しい自然が病気の回復に役立つとしています。

しかし他方で、建設投資の負担が重く、また看護師不足から一部病床の休止を余儀なくされていることで、経営はきびしくなっています。視察では、事務方から歴史、新設への経緯、現在の経営状況が話されました。まだまだ改善の余地はあるとの指摘もありました。さらに院長先生のお話も聞くことができました。

高山哲夫院長が強調していたのが、予防活動こそ医療の原点であるということ。救急対応だけでなく、慢性疾患や昨今の高齢化に対応できることが今後いっそう大切になっているとの認識から、生活・健康指導、体操教室などにも力を入れています。また地域包括ケアとして、介護職までいたれた人材ネットワークをつくらせたり、院長みずから地元の医師会の地域連携部会の長になつていきます。

さらに、高校再編後の福祉職養成の教鞭にも立つなど、まさに八面六臂の高山院長。「健康づくりはまちづくり」との信念のもと、健康を守るためには地域が大切であり、自然・文化・経済的環境の整備が不可欠、地域医療はそのまちづくりと一体であると力を込められました。



高校の授業を終え、駆けつけて説明に立つ高山院長

すばやい市役所の対応に 声を寄せた市民も注目

生活道路
維持管理

ある市民から、常磐自動車道の高架の下の雑草が伸び放題で、そのせいもあって大量のゴミが不法投棄されることにもなっていると声が寄せられました。

当該箇所の管轄は、フェンスの内側はNEXCO東日本（旧道路公団）、外側が市という区分になつてい

ます。さつそく党市議団では、それぞれ実態を確認して対処するよう求めました。このうちフェンス外側は、高速道会社に先駆けて、ただちに市が雑草を刈り取り、ゴミも収集されました。声を寄せてくれた市民も、すばやい市の対応には注目していました。



雑草が伸び放題で、ゴミの投棄もめだった従前のようす(上)と、市の対処後(下)



公民館まりつから



(10月24日、中郷)